

リコーグループの第20次中期経営計画 ～デジタルサービスの会社への変革～

変わる働き方と変わらずに大切にしていること

新型コロナウイルス感染症は世界を、そして人々の暮らしを大きく変えました。人々はオフィスに出社できず、働き方の変革を余儀なくされ、徐々に進展すると考えられていた「いつでもどこでもはたらく」という新しいワークスタイルへの変革が強制的に加速されることとなりました。このように働き方が変わっていく中で、私たちが変わらずに大切にしていることが二つあります。

一つは、私たちは徹底的にお客様に寄り添い続けるということです。リコーは1977年にオフィスオートメーションを提唱して以来、半世紀近くにわたりオフィスの効率化や生産性向上のお手伝いをしてきました。今後、仕事の価値が業務の効率化から人にしかできない創造力の発揮

へと移っていく中で、私たちは変わらずにお客様の「はたらく」に寄り添い続け、すべてのお客様が「はたらく」を通じて喜びや幸せを感じることに役に立つ会社でありたいと考えています。

そして、もう一つ変わらずに大切にしているもの、それはリコーの原点であり創業の精神である「三愛精神」です。「人を愛し、国を愛し、勤めを愛す」からなる三愛精神は、SDGsの原則である誰一人取り残さない社会という考え方にも通じるものがあります。リコーは、この三愛精神に基づいて設定したマテリアリティ（P11参照）に取り組むことで企業価値向上を図っていきます。

リコーグループの第20次中期経営計画

リコーグループは、2020年度を「危機対応」と「変革加速」の1年と位置づけ、全社一丸となって困難に対処することとしました。これにより、第20次中期経営計画（以下、20次中計）は、2021年度から2年間の中計とするとともに、中長期的な視点を重視し、2025年までの中期展望についても方向性を示しています。2025年には、「はたらく場をつなぎ、はたらく人の創造力を支えるデジタルサービスの会社」となることを目指しています。

20次中計の2年間では、「はたらく」の生産性を革新するデジタルサービスの会社への変革を実現します。経営目標としてはROE9%以上を掲げ、それを実現するための財務目標として営業利益1,000億円、売上高約2兆円などの指標を設定しています。また、財務指標と同様に重要である将来財務目標（ESG目標）についても、7つのマテリアリティごとに17の目標項目・目標値を設定し、達成に向けて尽力します。

リコーグループの第20次中期経営計画

“はたらく”の生産性を革新する「デジタルサービスの会社」への変革

2022年度 **ROE 9%以上**

事業成長と資本収益性向上の両輪で実現

◆ 実現のための財務指標

財務指標	2022年度目標
営業利益/率	1,000億円/5%
売上高	2兆円
ROIC	6.5%以上
オフィスサービス事業営業利益率*	8%

※従来開示区分に基づく

◆ 将来財務（ESG）目標

ステークホルダー別目標		2022年度目標
お客様	顧客評価のトップスコア率	30%
社会	GHGスコープ1、2削減率（2015年度比）*	30%
	GHGスコープ3削減率（2015年度比）	20%
	使用電力の再生可能エネルギー比率	30%
	製品の新規資源使用率	85%以下
従業員	社員エンゲージメントスコア	各地域50%tile以上
パートナー	各パートナーからの評価スコア	パートナー・地域ごとに設定
株主	ROE	9%以上

※GHG（Greenhouse Gas）：温室効果ガス